

## 図形楽譜を用いたインクルーシブな音楽教育に関する研究

### 【代表者】

沼田里衣 大阪市立大学 都市研究プラザ・テニユアトラック特任准教授

### 【共同研究者】

上野智子 和歌山大学 教育学部 准教授

菅道子 和歌山大学 教育学部 教授

山崎由可里 和歌山大学 教育学部 教授

### 【研究概要（申請書より抜粋）】

本研究は、学齢期の障害のある子どもを中心に、彼らの生涯にわたる社会参加を目的とし、多様な人々の開かれた文化活動を支援するため、図形楽譜を用いたインクルーシブな音楽活動の方法論を開発することを目的とする。

本研究の発端は、一昨年度より音楽教育を専門とする研究者と共同研究として実施している、インクルーシブな音楽活動の開発に関する研究（「即興演奏を用いた障害者の社会参加に関する研究」（2017年度）、及び「コミュニティ音楽活動における図形楽譜に関する研究」（2018年度）の成果によるものである。これらの研究から、特別支援学校における音楽プログラム開発と即興音楽研究の知見の融合により、図形楽譜を用いた手法が多様性のある音楽活動において一定の意義を持つことが見出された。それは、技術や価値観の差異のあるもの同士が即興的な対話の要素を含む方法で表現を楽しむことができること、また日常生活から離れ、伝統的な既存の価値観から離れた活動の場に参加することによって、一人一人の個性が尊重され、自己肯定感や充実感を得られることである。

こうした成果から、本年度は引き続きワークショップで検証を行うとともに、その成果を音楽療法と音楽教育の理論をベースとし、事例報告とともに音楽教育関連の学会で発表することを目的とする。